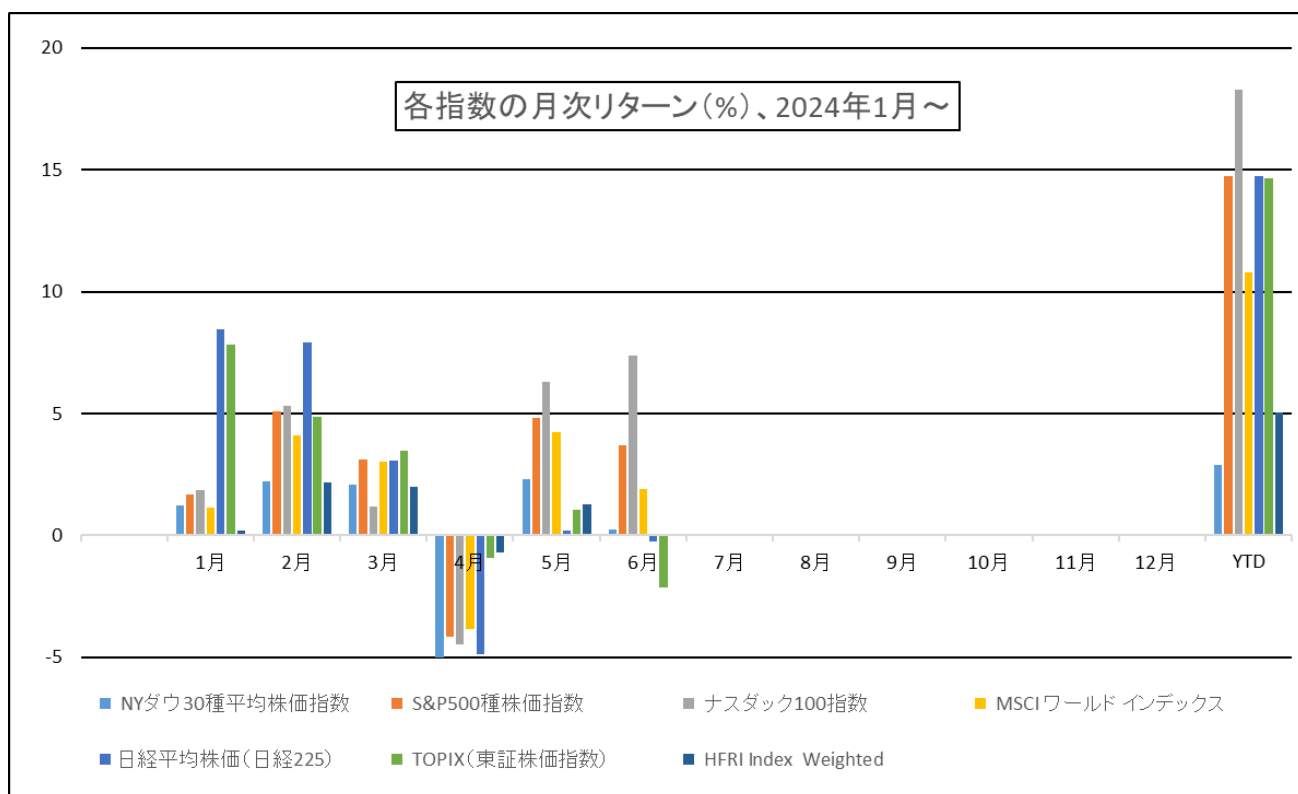


この月報は2024年5月のものですが、以下の表とグラフ及び総論は、この原稿執筆時の2024年6月21日時点でのものになります。

2024年(%)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	YTD
NYダウ30種平均株価指数	1.2	2.2	2.1	-5.0	2.3	0.2							2.9
S&P500種株価指数	1.7	5.1	3.1	-4.2	4.8	3.7							14.7
ナスダック100指数	1.9	5.3	1.2	-4.5	6.3	7.4							18.3
MSCI ワールド インデックス	1.1	4.1	3.0	-3.9	4.2	1.9							10.8
日経平均株価(日経225)	8.4	7.9	3.1	-4.9	0.2	-0.3							14.7
TOPIX(東証株価指数)	7.8	4.9	3.5	-0.9	1.1	-2.2							14.6
HFRI Index Fund of Funds	0.73	1.74	1.65	-0.52	0.79								4.46
HFRI Index Weighted	0.20	2.18	2.01	-0.69	1.27								5.03

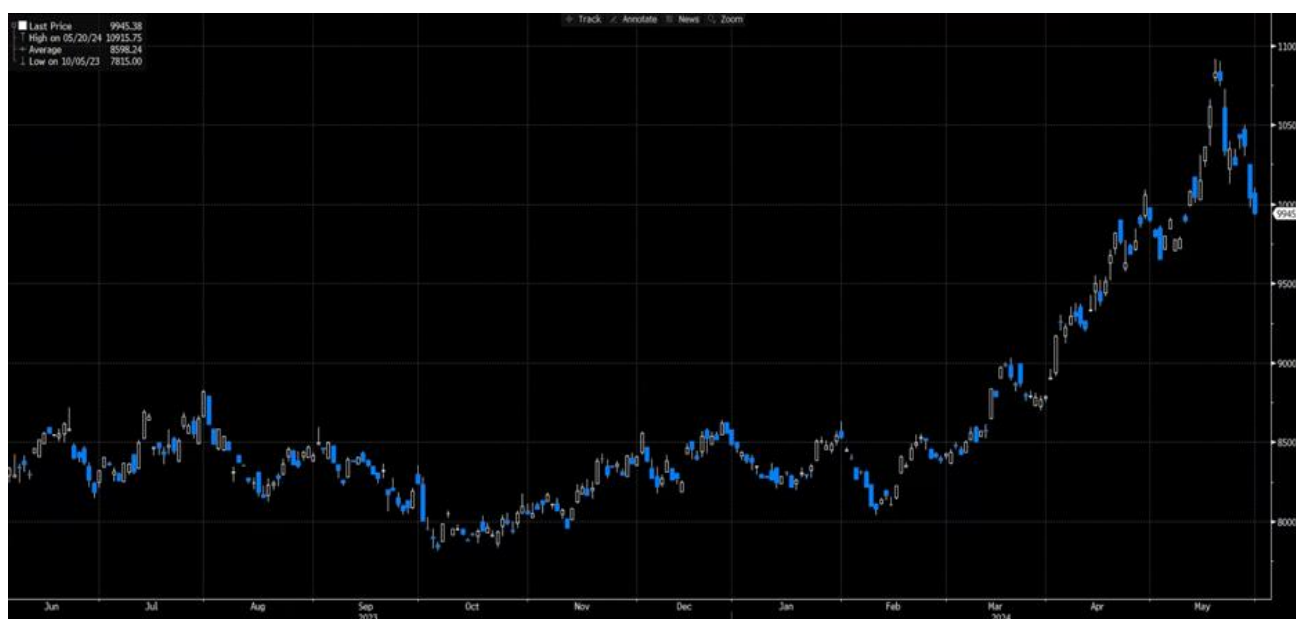


注：上記表とグラフは、公表されている資料から、エアーズシー証券が作成したものです。2024年2月とYTD(年初来)の数字は、2024年2月27日までのもの、もしくは速報値になります。また、以下のコメントは、運用会社アンタークティカ社より共有されたレポートを基に、エアーズシー証券が作成したものです。信頼できる情報に基づき作成をしておりますが、含まれる情報の正確性や完全性、また使用された市場情報源の正確性や信頼性を保証するものではありませんし、将来の実績を保証または示唆するものでもありません。エアーズシー証券は、当資料の分析、又はこれに関連した分析の使用により生じた如何なる損失にも責任を負いません。エアーズシー証券の許諾なしに、当資料の一部又は全部を引用または複製することを禁じます。

2024年5月月報の総論として、2024年5月の市場をまとめました。

月初めには、金利の低下、インフレ期待の縮小、そして金利の変動のぶれが大きく減少しました。その結果、米国のテック株、欧州の銀行株、銅、金、銀などのリスク資産が上昇しました。特に銅の価格が強気の市場の声とともに顕著に上昇しました。一部の専門家は「30年以上のキャリアで最も魅力的な取引だ」と言い、銅の価格目標が4万ドルになるとも予測しました。これは、BHPとアングロ・アメリカンの巨大な合併提案が世界最大の銅生産会社を作ることに由来しています。

図1：銅（23年6月～24年6月）



出典 アンタークティカ

月の中頃になると、状況が変わりました。ソフトウェア業界の需給が注目され、特にソフトウェア分野は業績予測の下方修正、金利の圧力、資金の流れの影響で低迷しました。今月、半導体業界がソフトウェアを追い越し、S&Pの中で最大のサブセクターとなり、NVIDIA (NVDA) がその中でも際立っていました。今日、NVIDIAの時価総額はドイツ全体の株式市場を超え、80%の粗利益率を75%の市場シェアで達成しています。市場の状況が変わった理由の一部には、先に述べた急激な上昇からの短期的な利益確定売りもありました。それでも、S&P 500 (SPX) とナスダック 100 (NDX) はそれぞれ月間で+4.80%と+6.28%の上昇を記録しました。

図2：S&P セミ対ソフトの年末ノーマライズ（23年6月～24年5月）



出典 アンタークティカ

今日では、ミクロの状況がマクロ経済の影響を受けています。特に目立つのは次の点です：

- 米国の金利に連動した長期モメンタム取引のショートポジション（売りポジション）
- クレジットスペクトラム全体における、より積極的な負債管理取引の増加

図3：長期モメンタムショートレッグ対米10Y利回り（23年9月～24年5月）

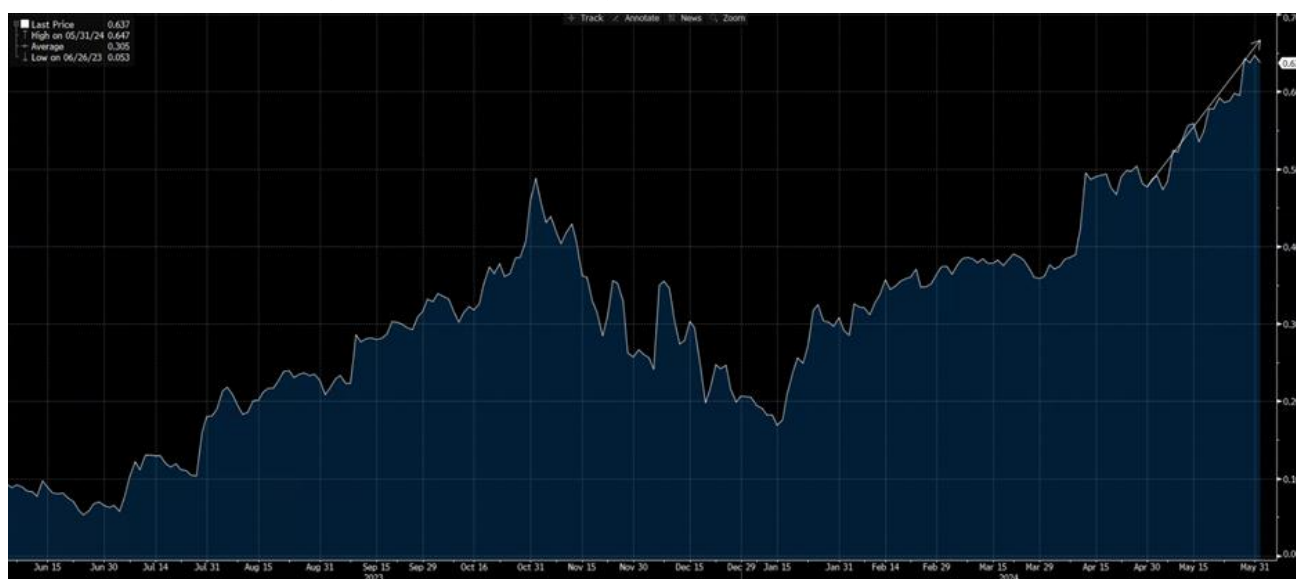


出典 アンタークティカ

マクロ経済の面では、データの重要性は一般的に後退し、中央銀行の発言が注目されました。連邦準備制度理事会（Fed）と欧州中央銀行（ECB）の両方が、来週の会合に向けて政策の方向性を示そうとしています。Fedは「様子見」の姿勢を強めている一方、ECBは金利引き下げを開始する可能性が高いです。

日本では金利が一方方向に動いており、5年物日本国債（JGB）の金利は月間で+17 ベーシスポイント（bps）上昇しました。最後に、米ドル（USD）長期金利で年初来の利益の一部を失い、月間で-1.46%下落しました。

図表4：5年国債利回り（23年6月～24年5月）



出典 アンタークティカ

#### 情報ソース、及び注意事項：

アンタークティカ社、HFR ホームページ、ブルームバーグ、日経新聞、トムソン・ロイター、ウォール・ストリート・ジャーナル、リフィニティブ、QUICKなどのソーシャルメディア、ウェブサイトの信頼できる情報に基づき、本資料を作成しておりますが、含まれる情報の正確性や完全性、また使用された市場情報源の正確性や信頼性を保障するものではありません。また、本株式の過去の運用実績に関する分析の提供は、将来の運用成績を示し保障するものではありません。エアーズシー証券株式会社は、当資料の分析、又はこれに関連した分析の使用により生じたいかなる損失にも責任を負いません。エアーズシー証券株式会社の許諾なしに、当資料の一部又は全部を引用または複製することを禁じます。